



リバーブランディングのご説明と 神田川・隅田川の活性化について

特定非営利活動法人 ウォーターズ・リバイタルプロジェクト 代表 水谷 要様

私たちは、河川と地域のオリジナルの価値を創造し、自然を守り地域を元気にするための「リバーブランディング」活動を、実働とコンサルの両面で進めています。つまり、川を守り、活用し、集客するための全ての行程をプロデュースするのが仕事です。交付金の申請、協賛企業の獲得に向けた企業課題と地域課題のマッチングと提言、PR活動やWEB制作、そして何より大切な地域住民の皆様との交流を深めるために、日本全国を元気に活動しています。高知県 野根川では、アユ遡上数の激減が深刻でした。そこでプロジェクトチームを編成し、原因を突き止め、魚道の改修と新商品開発などを実現しました。この魚道の白マルはアユの大群です。それに酔鯨酒造が賛同し、野根川の水と流域米で仕込んだ純米酒「香魚」を発売しました。その他にも、新潟県 大川のサケの「コド漁」と「コモンズ」をテーマとする活動や岩手県 安家川（あっかがわ）をカワシンジュガイが生息する日本屈指の「夢の清流」にする事業などを手掛けています。広告会社時代に培ったノウハウを全方位で活用しながら頑張っています。



そして私たちは今年度より、「神田川・隅田川にアユを帰そう♪」キャンペーンを立ち上げてまいります。神田川は、井之頭公園を源流とする約25キロの川、多くの著名な地域を流れる河川を従え、柳橋地区で隅田川に合流する一級河川です。東京の主要部を流れる、歴史そのもの、きわめて稀な流域全て「開渠（かいきよ）の川」です。新宿区の実施している「神田川生き物実態調査」によりますと、毎年アユが捕獲されています。それに何と驚くべきことに、平成27年にシロサケが確認されています。どこから来たのでしょうか。とても夢のある話です。世界屈指の大都会東京の川をアユやサケが遡上すれば、それは爽やかなニュースとなり、生命地域主義や自然の再生力の象徴となるはずで。いつの日か、この川をアユやサケがたくさん遡上する姿を見てみたいものです。



そしてこのキャンペーンのポイントになるのは、下記の3点です。

◆SDGS視点

神田川をアユの遡上する川に！次世代に向けた環境啓蒙を東京の中心部から発信したい。

◆水資源の大切さ

神田川と「水を起点」とした江戸の街づくりから、次世代の若者たちに多くの気づきを与えたい。

◆歴史視点

神田川・隅田川の合流点、柳橋地区から水源である井之頭公園までの歴史観を多くの人々と共有したい。

それではここで、あまり知られていないアユの生活史について少しふれます。

アユは年魚ともいわれますが、成魚は川で生活し、秋に川の下流域で産卵したのち1年間でその一生を終えます。そして川の下流域で孵化したアユたちは海（東京湾）に下ります。そして生まれてから三分の一程度の期間を海で生活したのち、春に隅田川～神田川を遡上してきます。アユたちは早春に海から遡上、春から夏にかけて中流部から上流部で生活し、秋が近づくると河川を下りはじめ下流域にて産卵します。産卵に適した河床は、粒の小さな砂利質で泥の堆積のない水通しの良く砂利が動く場所が適しています。

そしてアユの受精卵は、2週間ほどすると孵化して、海あるいは河口域に流下し春の遡上に備えて海で生活します。生まれたての仔魚は全長約6mmで、河口沿岸の海底が砂利や砂地の地域を回遊しますが、餌は動物性プランクトンなどのようです。全長約10mmになると徐々に河口域の浅所に集まります。そして4月から5月頃、体長5～10cmになると稚魚たちは川を遡上します。この頃から体型は成魚に近づき、歯の形が岩の上の藻類を食べるのに適した形状に変化します。稚魚は水棲昆虫なども食べますが、徐々に石に付着する藍藻類や珪藻類を主食とするようになります。アユが岩石表面の藻類を食べると岩の上に独特の食べ痕が残る、これを特に「はみあと（食み跡）」といいます。アユを川辺から観察すると、藻類を食べるためにしばしば岩石に頭をこすりつけるような動作を行うのがわかります。夏ころまでは灰緑色だった体色は、秋に性成熟すると「さびあゆ」と呼ばれる橙と黒の独特の婚姻色に変化します。そして産卵のため下流域への降河を開始します。

ここで重要なことは、海と川が繋がっていることがいかに大切かということです。横断構造物や魚道が水害などの原因で破損したままで放置されていると、海から上がった稚魚たちの遡上を妨げる原因となります。

最後になりますが、私たちは、「人新世（じんしんせい）」の時代を生きています。

「人新世」とは21世紀に入ってから新たに提唱されている地質学の新しい時代区分です。

人類が地球の地質や生態系に与えた負の影響は計り知れません。そんな時代に生きて、様々な川の生命地域主義の復活と地域の活性化をめざすことは、たいへんやりがいがある、残りの人生を、そんなお手伝いに費やすのも悪くないと感じています。

hp: www.rbjapan.org

hp: www.wrp-npo.com